

平成17年度試験研究成果書

区分	普及	題名	品種	おうとう	豊産性で食味良好な品種「紅秀峰」
[要約] おうとう品種「紅秀峰」は、豊産性で、糖度18~20%と食味に優れた晩生品種である。					
キーワード	品 種	おうとう	紅秀峰	園芸畑作部	果樹研究室

1 背景とねらい

本県のおうとう栽培面積は約4.5haと少ないものの、県北地区を中心に栽培されており、「佐藤錦」の優良等級は「夏恋」としてのブランド化がなされている。おうとうは本県の気象条件に適した収益性の高い品目であり、今後積極的に推進を図ることとしている。

一方、おうとうは収穫時に労力が集中し、主力品種である「佐藤錦」は、やや収量が少なくいため、「佐藤錦」とは熟期が異なり、かつ、豊産性の品種が望まれている。

そこで、山形県園芸試験場（現山形県総合農業研究センター）が育成した「紅秀峰」を検討した結果、豊産性で食味が優れた品種と認められた。

2 成果の内容

(1) 来歴

「紅秀峰」は山形県園芸試験場（現山形県農業総合研究センター農業生産技術試験場）が「佐藤錦」に「天香錦」を交配し育成した品種である。なお、本品種は1991年11月に種苗登録された。

(2) 特性の概要

- ア 開花期は「佐藤錦」より5日程度早く、収穫期は「佐藤錦」より4~5日遅い晩生品種である。岩手県中南部における収穫期は7月初旬である。（表1）
- イ 果実は短心臓型、果重は「佐藤錦」より大きく10g前後である。収量はおよそ600kg/10aで「佐藤錦」より多く豊産性である。（表2）
- ウ 果皮色は赤~濃赤色で着色しやすく、収穫5日前の着色管理で十分な着色が得られる。（表3）
- エ 糖度は18~20%程度、酸は3.8~4.0(pH)で、甘みが強く、食味に優れる。（表2、図1）
- オ 「佐藤錦」、「ナポレオン」との交雑和合性が認められる。（表4）

3 成果活用上の留意事項

- (1) 病害虫防除、収穫期の裂果防止のため、雨よけ栽培とする。
- (2) 結実確保のため、授粉樹を混植し、人工授粉を行う必要がある。授粉樹は開花期がほぼ同時期で交雑和合性のある「高砂」が適していると考えられる。
- (3) 樹勢は強勢であるが、豊産性のため着果過多は樹勢を弱める原因となる。そのため着果量が多い場合は摘果を行い適正着果（1果束状短果枝あたり2~2.5果）に努めるとともに、台木については強勢な台木を利用する。
- (4) 着色良好であるが、着色開始時期も早いいため、早どりすると、食味が劣るので、適期収穫に努める。

4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者等

ア 適用地帯：県内おうとう産地。

(2) 期待する活用効果

- ア おうとうの生産の安定化が図られる。
- イ 豊産性で栽培が容易なため、県北地域以外でも産地化が期待される。
- ウ 普及見込み面積 10ha（平成20年目標 1ha）

5 当該事項に係る試験研究課題

- (826) おうとう、もも等の優良品種の選抜
- (1000) おうとう、もも等の優良品種の選抜

6 参考資料・文献

平成16~17年 果樹試験成績書(未定稿)
平成5年 山形県園芸試験場研究報告10号

7 試験成績の概要（具体的なデータ）

表1 「紅秀峰」の生育、生態（岩手県農研センター）

品 種	年次	開花日	満開日	落花日	収穫日	満開後日数
紅秀峰/ハ イス-ハ°-6	2004	4/20	4/26	5/ 3	7/ 1	67
	2005	4/28	4/30	5/ 6	7/ 5	67
佐藤錦/ハ イス-ハ°-6	2004	4/29	5/ 1	5/11	6/28	59
	2005	5/ 2	5/ 5	5/11	7/ 1	58

生育、生態：雨よけ栽培

表2 「紅秀峰」の果実品質（岩手県農研センター）

品 種	年次	果 形	果皮色	果肉の 硬 さ	果重 (g)	糖度 (%)	酸度 (pH)	収量 (kg/10a)
紅秀峰/ハ イス-ハ°-6	2004	短心臓型	濃赤	やや硬	7.9	18.3	4.0	605
	2005	短心臓型	濃赤	やや硬	10.2	21.3	3.8	545
佐藤錦/ハ イス-ハ°-6	2004	短心臓型	赤	中	6.4	17.6	3.9	305
	2005	短心臓型	淡赤～赤	中	7.2	17.8	3.8	350

収量：7～8年生樹、5×4m植

表3 着色管理時期別着色程度（岩手県農研センター 2005）

品 種	収穫1週間前処理				収穫5日前処理			
	L	a	b	色相角度	L	a	b	色相角度
紅秀峰/ハ イス-ハ°-6	38.6	35.6	7.9	12.7	38.2	36.6	8.2	12.6
佐藤錦/ハ イス-ハ°-6	45.7	29.2	11.5	21.5	51.1	23.4	14.8	32.4
品 種	無処理							
	L	a	b	色相角度				
紅秀峰/ハ イス-ハ°-6	41.9	33.8	9.9	16.2				
佐藤錦/ハ イス-ハ°-6	54.2	20.2	17.4	40.8				

着色管理はいずれの区も軽い葉摘み程度とした。

着色程度色：色彩色差計NR-3000により測定

L：(彩度)小(黒)↔大(白) a：-領域(緑)↔+領域(赤) b：-領域(青)↔+領域(黄)

色相角度：赤を基準に色相の角度差を表した数字(0に近いほど赤い)

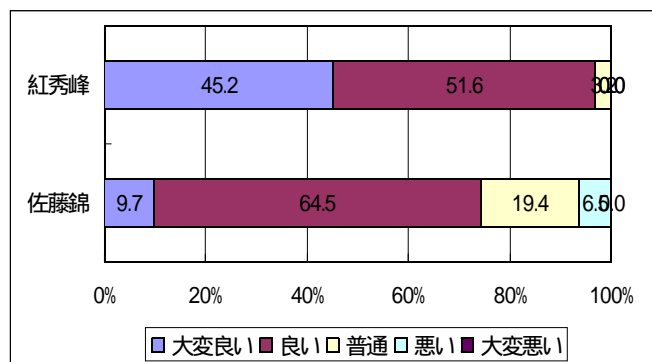


図1 食味アンケート結果（総合評価）
農業研究センター職員等31人の食味評価結果

表4 「紅秀峰」の交雑和合性（山形県園芸試験場）

被授粉樹()	授粉樹()	年度	供試花数(A)	結実数(B)	結実率(B/A)	和合性
紅秀峰	佐藤錦	1992	114	62	54.4	
		ナポレオン	1992	196	70	35.7
佐藤錦	紅秀峰	1989	341	20	5.9	
		1990	516	89	17.2	
		1991	336	20	6.0	
ナポレオン	紅秀峰	1989	300	21	7.0	
		1990	240	59	24.6	
		1991	265	37	14.0	

和合性：和合性(10%以上) ×：不和合性(2%以下)